

JVCKENWOOD

JVCケンウッド 決算説明資料

2022年3月期 第3四半期 (IFRS)

2022年2月1日



株式会社JVCケンウッド

事業内容

* 本資料の数値は全てIFRS（国際財務報告基準）となっています。

メディアサービス分野（MS）

- メディア事業
・ライフスタイル／ソリューション／ブランド
ヘッドホン、ホームオーディオ、ポータブル電源、
ビデオカメラ、プロジェクター、映像デバイス、
受託ビジネス など
- エンタテインメント事業
コンテンツ など

パブリックサービス分野（PS）

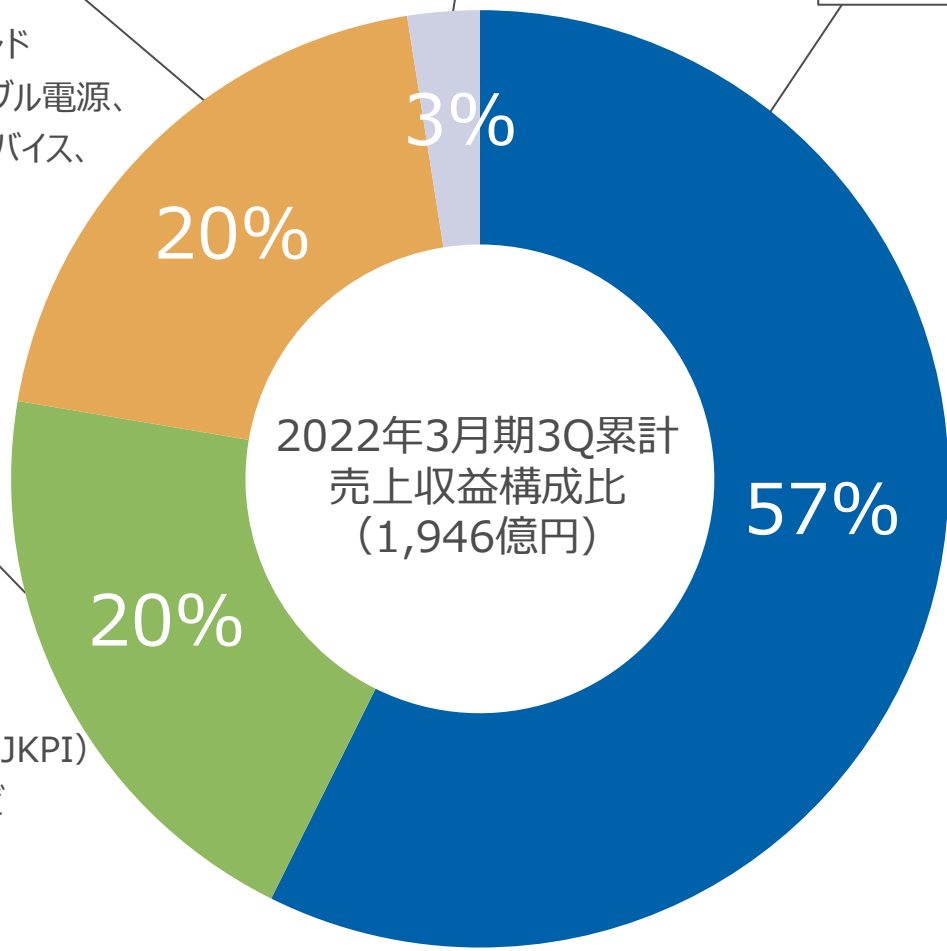
- 無線システム事業
業務用無線、アマチュア無線 など
- 業務用システム事業
・JVCケンウッド・公共産業システム（JKPI）
監視カメラ、業務用放送機器 など
- ・ヘルスケア領域
医用画像表示用モニター、
エクソソーム解析システム、
ゲイズファインダー など

その他

- DX※ビジネス など

モビリティ&テレマティクスサービス分野（M&T）

- OEM事業
カーナビゲーション
ディスプレイオーディオ
ドライブレコーダー
車載用カメラ
車載用CD／DVDメカ
車載用光ピックアップ
車載用スピーカー
車載用アンテナ
車載用アンプ など
- アフターマーケット事業
カーナビゲーション
ドライブレコーダー
カーオーディオ
ディスプレイオーディオ など
- テレマティクスサービス事業
通信型ドライブレコーダー
IoTプラットフォームサービス
タクシー配車システム など



※ Digital Transformation

1. 2022年3月期 第3四半期決算概況

2. 2022年3月期 通期業績予想

3. トピックス

1. 2022年3月期 第3四半期決算概況

2. 2022年3月期 通期業績予想

3. トピックス

2022年3月期3Q累計決算ハイライト

- 売上収益は、半導体などの部品供給不足による影響をM&T、PSで大きく受けたが、新型コロナウイルス感染症による影響の減少により徐々に市場が回復基調となり、前期並み
- 営業利益は、子会社の売却益及び金融資産の評価益計上などにより、その他の収益が増加したことなどから増益

(億円)

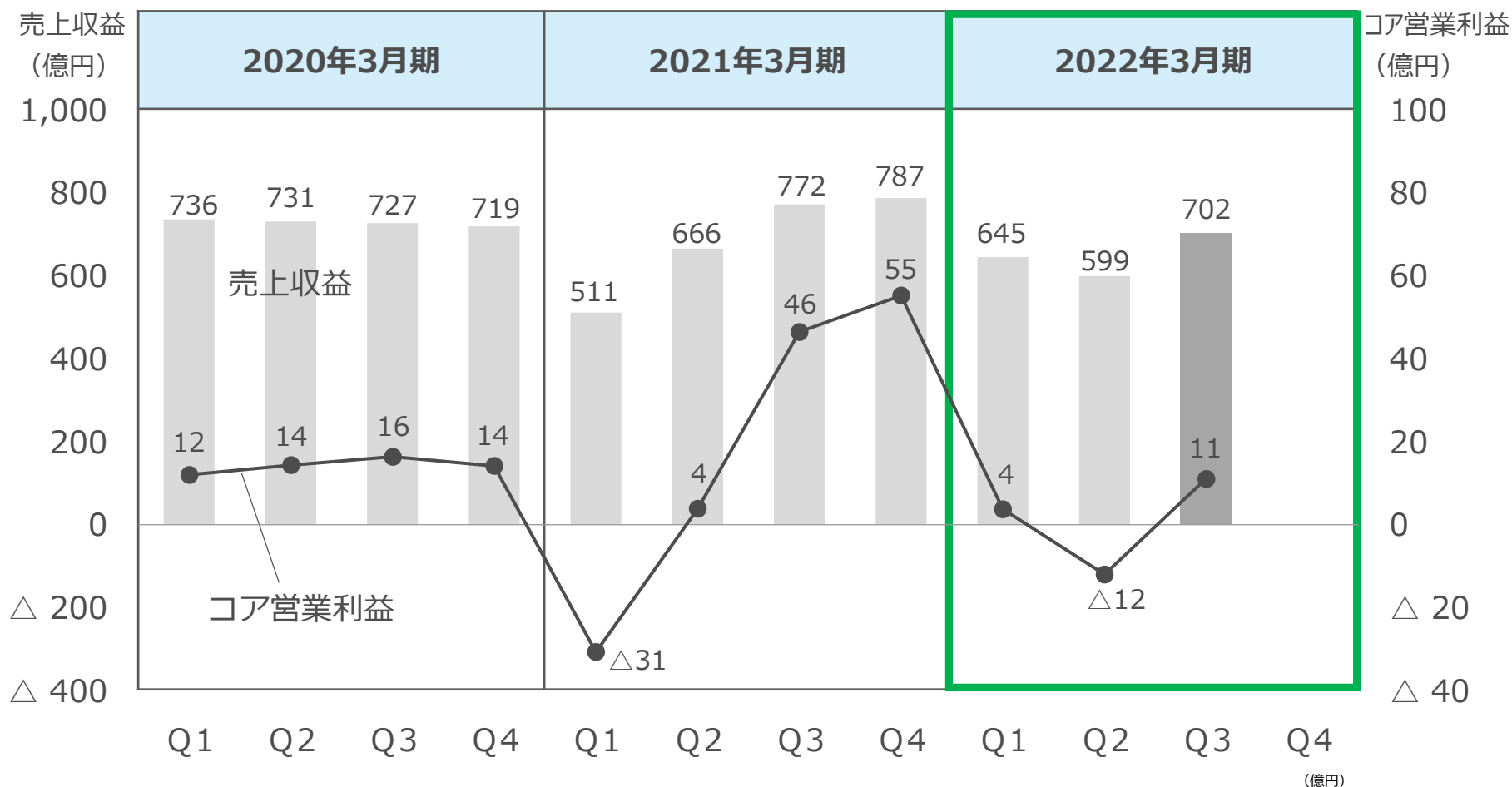
	'21/3期 3Q累計		'22/3期 3Q累計		
		構成比 (%)		構成比 (%)	前期差
売上収益	1,949	100.0	1,946	100.0	△ 3
売上原価	1,435	73.6	1,436	73.8	+ 2
売上総利益	514	26.4	510	26.2	△ 4
コア営業利益 [※]	20	1.0	3	0.1	△ 17
営業利益	21	1.1	36	1.9	+ 16
税引前利益	20	1.0	31	1.6	+ 11
親会社の所有者に帰属する四半期利益	5	0.3	5	0.3	+ 0

※ 営業利益から、その他の収益、その他の費用、為替差損益など、主に一時的に発生する要因を控除したもの

		'21/3期					'22/3期				
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
損益為替レート	1米ドル	108円	106円	105円	106円	106円	110円	110円	114円	-	-
	1ユーロ	119円	124円	125円	128円	124円	132円	130円	130円	-	-

全社 四半期別実績推移

- 3Qは2Qに続き半導体などの部品供給不足による影響を大きく受けるも、調達状況は徐々に改善し、2Q比では改善傾向



	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上収益	1,467	1,446	1,177	1,559	1,244	—
コア営業利益	26	31	△ 27	102	△ 8	—

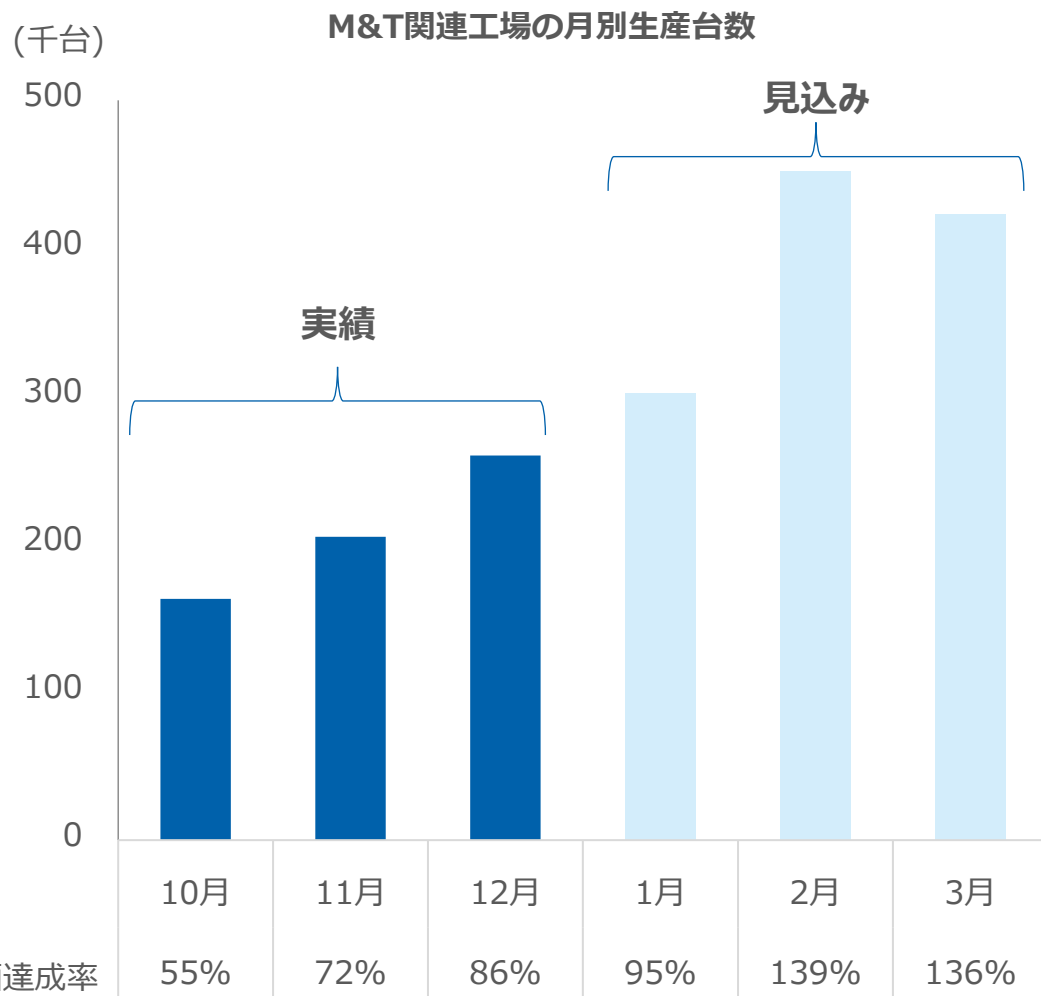
3Qのサプライチェーン問題について

影響額：売上収益△90億円、コア営業利益△32億円

- M&Tでは、上期に続き半導体中心に部品供給問題が継続するも、2Q比では改善傾向にあり、計画に対する充足率は月毎に改善
- PSでは、アジア地域の新型コロナウイルス感染症によるロックダウンの影響が想定以上に長引いたこと、及び半導体などの部品供給不足影響の顕在化により、想定以上の影響が発生
- MSでは、一部オーディオ商品において部品供給不足が発生したが、影響は限定的に留まる
- 物流は上期以上にリードタイムが長期化し、特に米国向けでは年末に多くの製品が現地法人に届かず、輸送中の製品在庫の増加と販売ロスが発生

サプライチェーン問題への4Q以降の対応について

- 3Qは部品調達状況が2Qより改善し、生産台数も徐々に回復
- 4Q以降は部品確保に加え、設計変更分の生産開始によりフル生産を見込む



カーナビゲーション



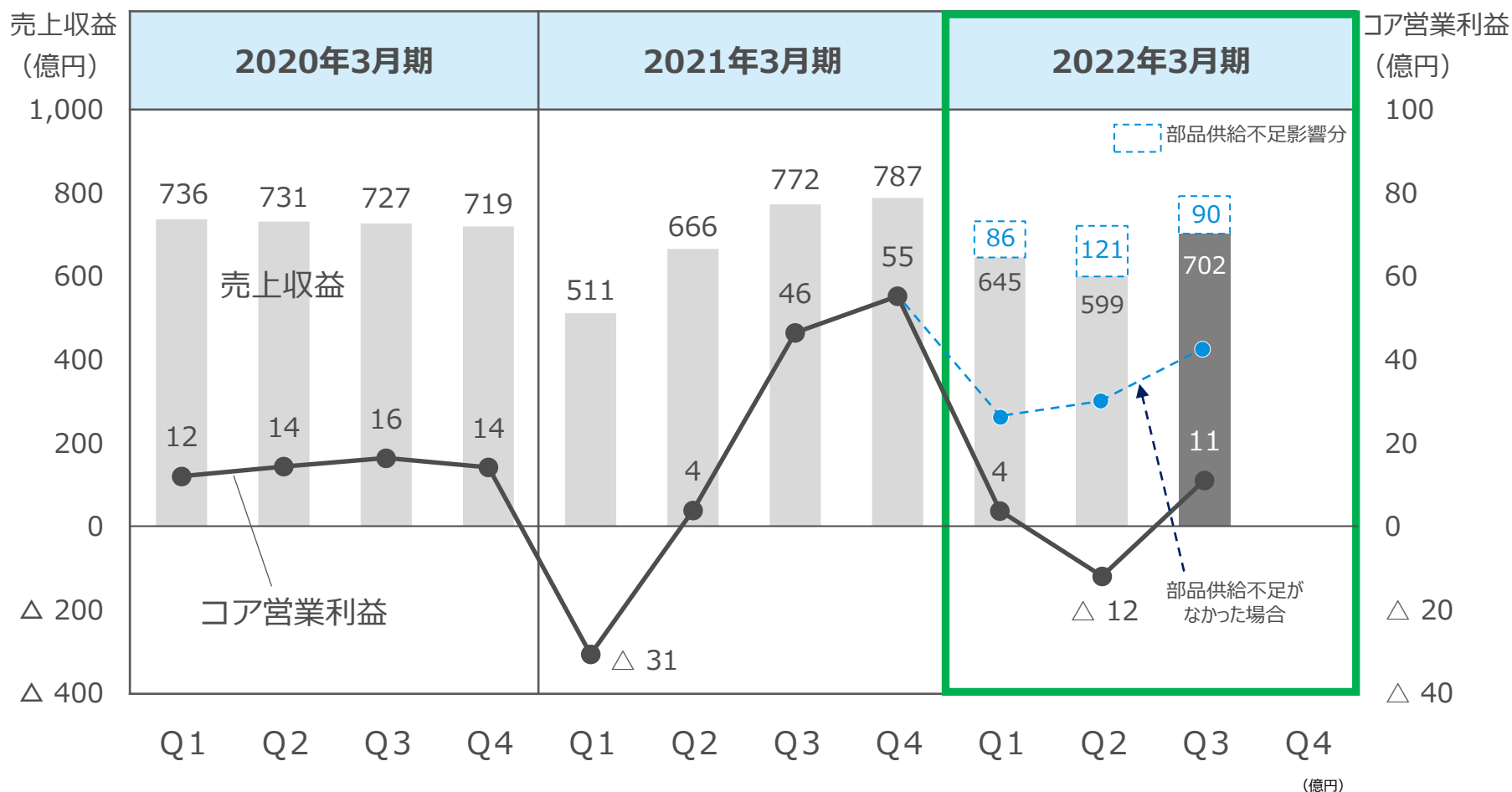
ディスプレイオーディオ



カーオーディオ

全社 四半期別実績推移 (部品供給不足がなかった場合)

■ 3Q累計の部品供給不足影響額は、売上収益△298億円、コア営業利益△96億円



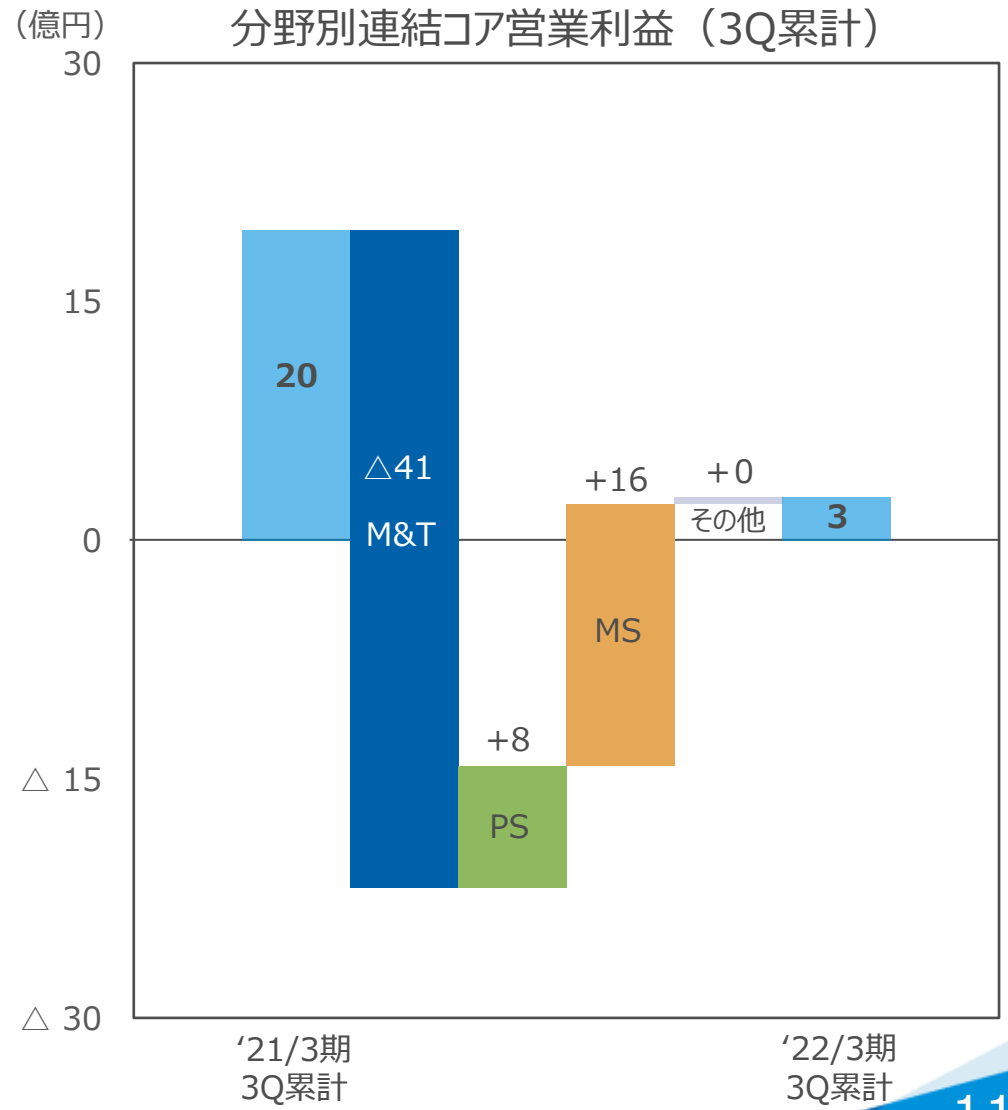
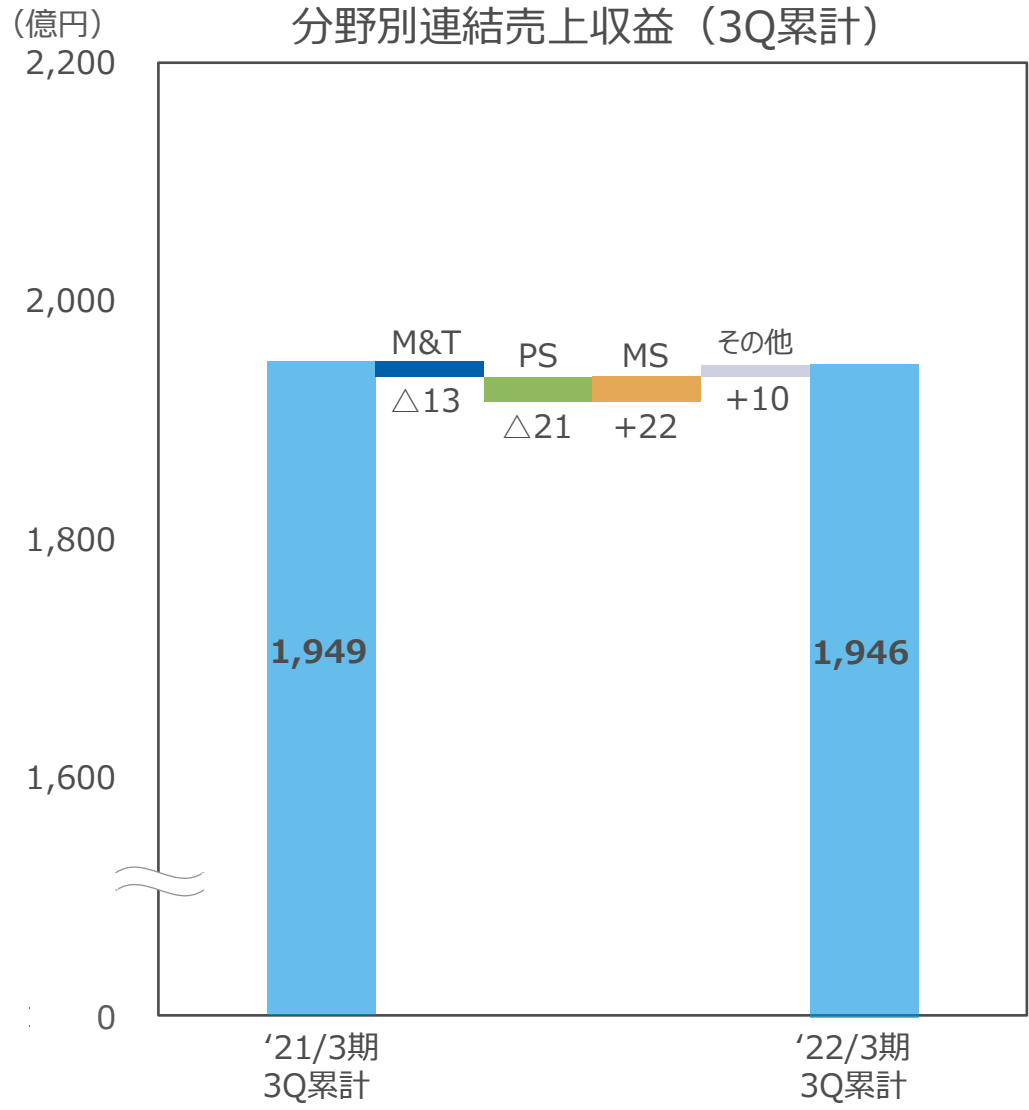
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上収益	1,467	1,446	1,177	1,559	1,244	—
コア営業利益	26	31	△ 27	102	△ 8	—

2022年3月期3Q累計決算 分野別の状況

(億円)

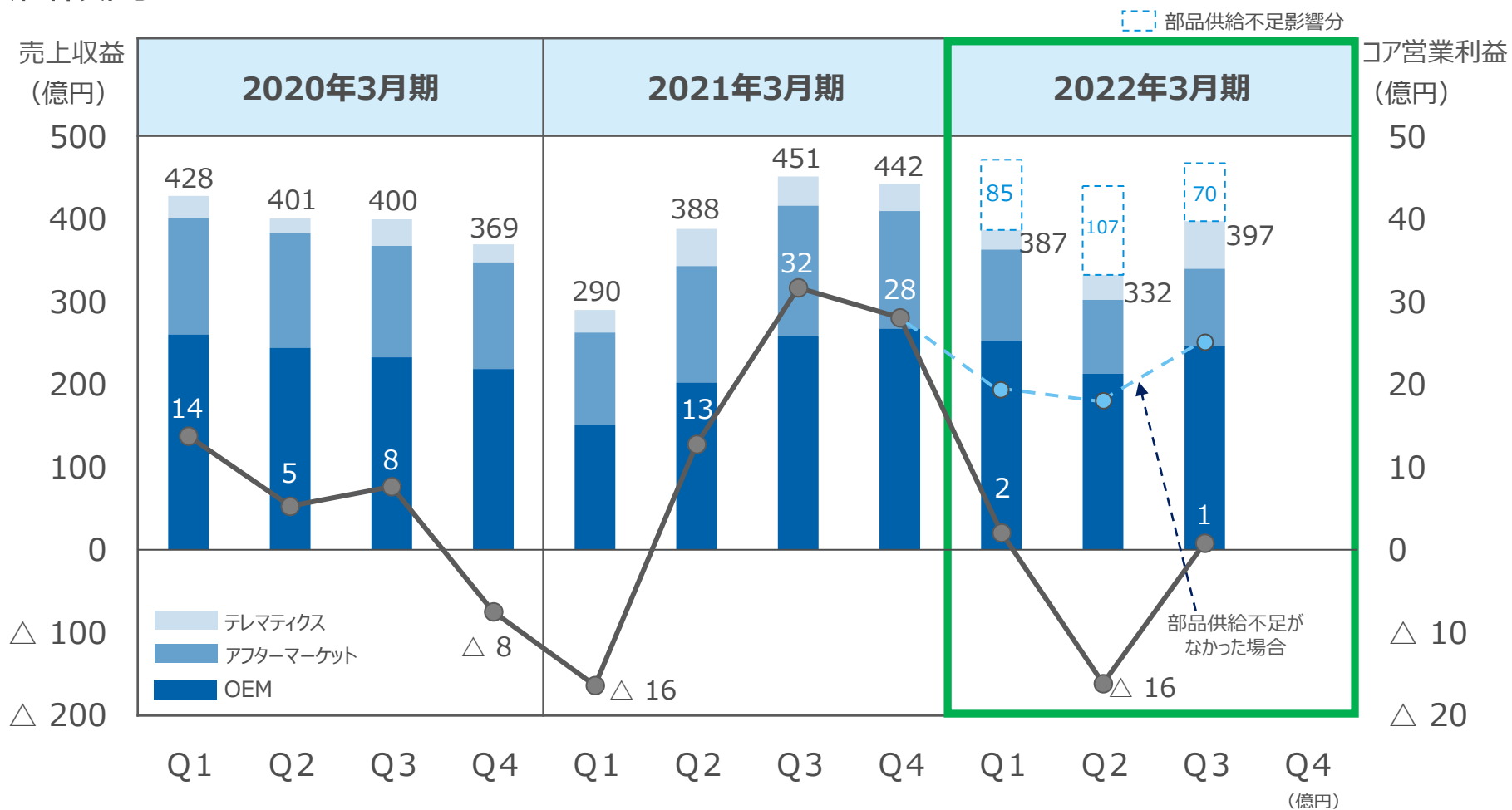
		'21/3期 3Q累計	'22/3期 3Q累計	増減	前期 増減率	要因
M&T	売上収益	1,129	1,116	△ 13	-1.2%	* OEMは、2Q/3Qに部品供給不足の影響を受けたが、中国市場の回復にともない、自動車メーカー向けスピーカー、アンプ、ケーブルなどの販売が、堅調に推移したことなどから増収。 アフターマーケットは、2Q/3Qに部品供給不足の影響を大きく受け、ナビゲーションなどの販売が減少し減収。 テレマティクスサービスは、3Qに損害保険会社向けテレマティクスソリューション関連商品の販売が増加し増収
	コア 営業利益	28	△ 13	△ 41	-	* OEMは増収により、損失が縮小。アフターマーケットは減収の影響から減益、損失を計上。 テレマティクスサービスは部品価格高騰の影響を受け減益も、3Qは販売増により2Q比では大幅増益
PS	売上収益	416	395	△ 21	-5.1%	* 無線システムは、海外市場の需要は堅調であるものの、2Qには主に東南アジアでロックダウンにともなう工場の操業縮小・停止による影響、3Qには部品供給不足による影響を受けたことなどから、減収。 業務用システムは、首都圏を除く地域で徐々に回復。ヘルスケア領域も国内海外ともにモニターの販売が堅調だったことから、部品供給不足の影響を受けるも増収
	コア 営業利益	△ 9	△ 2	+ 8	-	* 無線システムは減収の影響から減益。業務用システムは増収の効果により、損失が縮小
MS	売上収益	365	387	+ 22	+5.9%	* メディアは、テレワークや巣ごもり需要の増加にともない、ホームオーディオやポータブル電源、プロジェクターの新商品などBtoC販売の好調推移に加え、BtoBも業務用リモートカメラの販売が好調に推移し増収。 エンタテインメントは、コンテンツビジネスが好調に推移し増収
	コア 営業利益	2	19	+ 16	+755.9%	* 増収の効果から、メディアは黒字に転換、エンタテインメントは増益
その他	売上収益	38	48	+ 10	+26.2%	
	コア 営業利益	△ 1	△ 1	+ 0	-	
合計	売上収益	1,949	1,946	△ 3	-0.1%	
	コア 営業利益	20	3	△ 17	-86.1%	

2022年3月期3Q累計決算 分野別連結売上収益・コア営業利益



M&T分野 四半期別実績推移

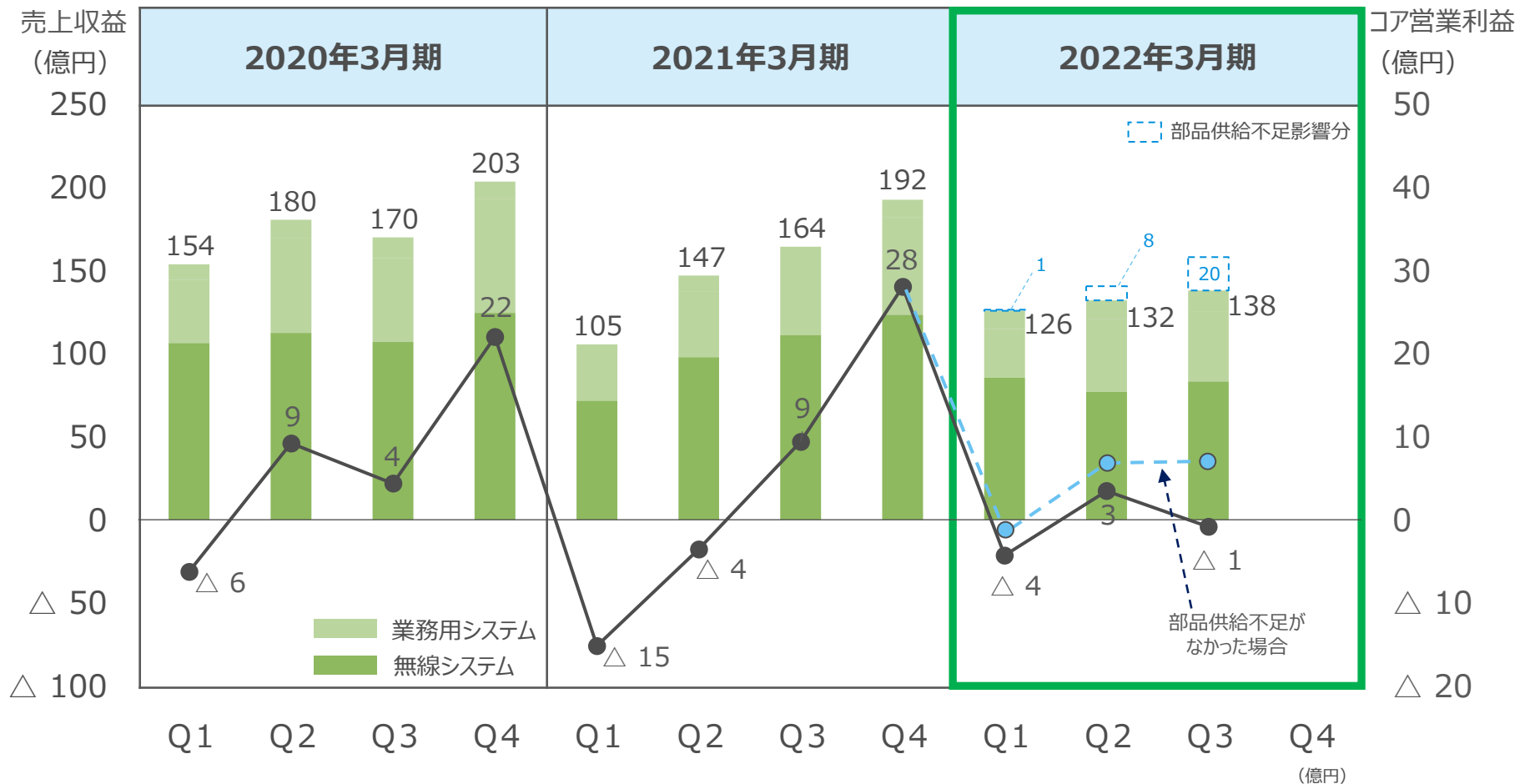
- 3Qは2Qに引き続き半導体などの部品供給不足による影響を大きく受けるも、2Q比では改善傾向



	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上収益	828	769	678	893	719	—
コア営業利益	19	0	△ 4	60	△ 14	—

PS分野 四半期別実績推移

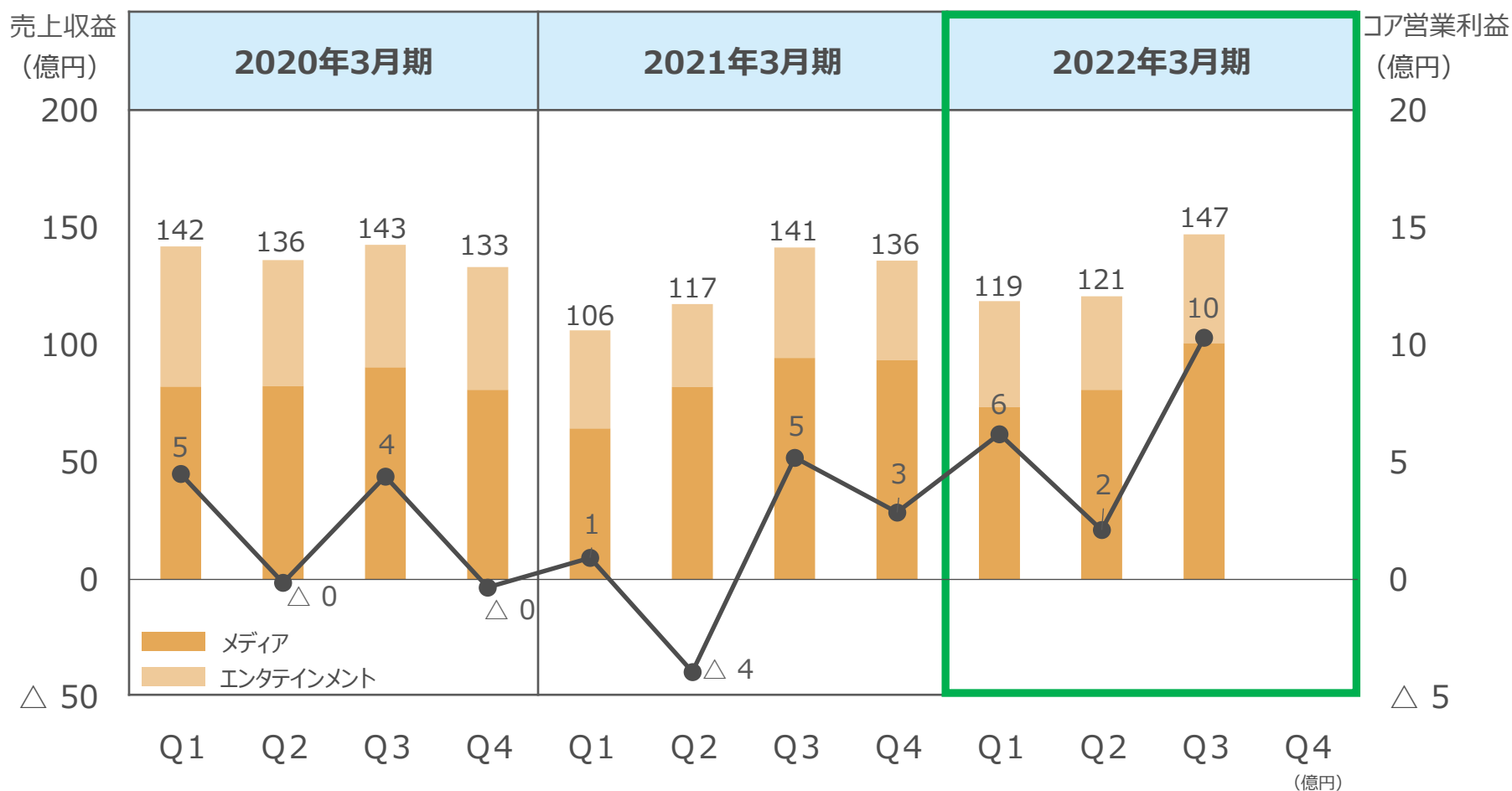
- 3Qは無線システムで半導体などの部品供給不足による影響を受けたことに加え、前期は大型受注案件があったこと、子会社売却の影響などもあり減収減益



	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上収益	334	373	252	357	258	—
コア営業利益	3	26	△ 19	37	△ 1	—

MS分野 四半期別実績推移

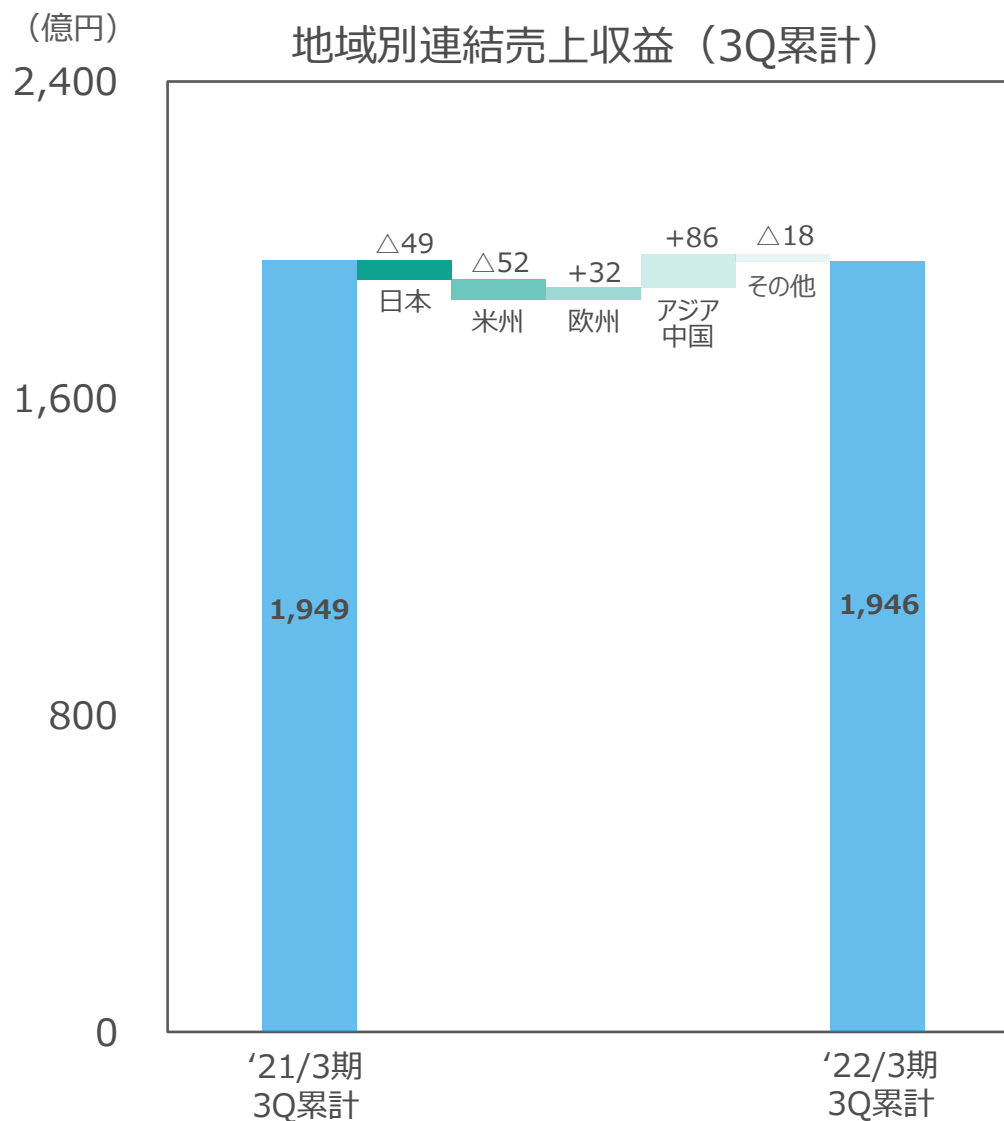
- 3Qは2Qに引き続きメディア、エンタテインメントとも好調に推移し、分野全体で増収増益。
3Q累計でも増収増益



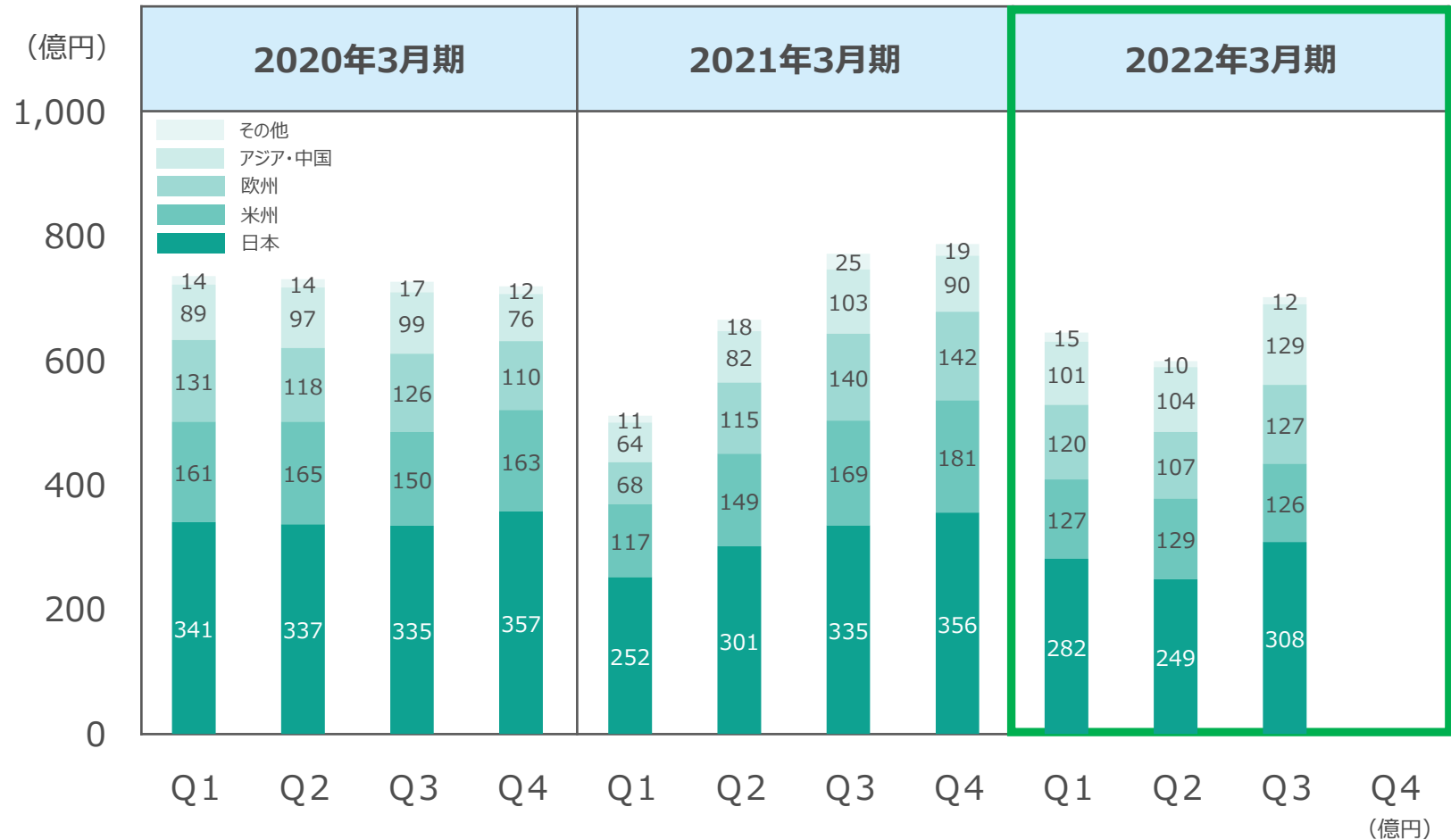
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上収益	278	276	223	277	239	-
コア営業利益	4	4	△ 3	8	8	-

2022年3月期3Q累計決算 地域別連結売上収益

■ サプライチェーン問題を受け、日本・米州は減収も、欧州・アジア・中国はM&Tが好調に推移



地域別連結売上収益推移



	上期	下期	上期	下期	上期	下期
日本	678	692	554	691	531	-
米州	326	314	266	350	257	-
欧州	249	236	182	282	227	-
アジア・中国	187	175	146	193	205	-
その他	27	29	30	44	25	-

2022年3月期3Q累計決算 連結損益（要約）

- 子会社の売却益及び金融資産の評価益を計上したことなどから、営業利益は増益となり税引前利益も増益
- 四半期利益は、法人所得税費用が増加したものの増益

(億円)

	'21/3期3Q累計	'22/3期3Q累計	増減
コア営業利益 [※]	19.5	2.7	△ 16.8
その他の収益・費用、為替差損益等	1.1	33.5	+ 32.5
営業利益	20.6	36.3	+ 15.7
金融収支他	△ 0.9	△ 5.5	△ 4.6
税引前利益	19.7	30.8	+ 11.1
法人所得税費用	10.0	21.6	+ 11.6
非支配持分	4.7	4.1	△ 0.6
親会社の所有者に帰属する四半期利益	5.0	5.0	+ 0.1

※ 営業利益から、その他の収益、その他の費用、為替差損益など、主に一時的に発生する要因を控除したもの

2022年3月期3Q累計決算 財政状態サマリー

- 現預金は借入金減少もあり451億円と前期末比145億円の減少。ネットデットは116億円増加
- 親会社の所有者に帰属する持分は、利益計上とその他の資本の構成要素の増加にともない増加

	'21/3期末	'22/3期3Q	増減
資産合計	2,643	2,644	+ 1
負債合計	1,958	1,926	△ 32
資本合計	685	718	+ 33
有利子負債	756	727	△ 29
ネットデット	159	275	+ 116
ネットD/Eレシオ（倍）	0.25	0.41	+ 0.16
親会社の所有者に帰属する持分	646	672	+ 26
親会社所有者帰属持分比率（%）	24.5	25.4	+ 0.9

2022年3月期3Q累計決算 キャッシュ・フローサマリー

- 営業キャッシュ・フローは、サプライチェーンの混乱にともなう運転資金の悪化から支出が増加
- 投資キャッシュ・フローは、子会社売却の収入により支出が減少
- 財務キャッシュ・フローは、銀行借入れの返済を進めたことから支出が増加

(億円)

	'21/3期3Q累計	'22/3期3Q累計	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	229	△ 26	△ 255
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 89	△ 56	+ 33
フリー・キャッシュ・フロー (営業活動によるキャッシュ・フロー+ 投資活動によるキャッシュ・フロー)	140	△ 82	△ 222
財務活動によるキャッシュ・フロー	13	△ 71	△ 84
合計	152	△ 154	△ 306

1. 2022年3月期 第3四半期決算概況

2. 2022年3月期 通期業績予想

3. トピックス

2022年3月期 通期業績予想

- 3Q累計の実績は、半導体などの部品供給不足による影響を受けたが、新型コロナウイルスの影響減少により徐々に市場が回復基調となり、概ね想定通り
- 4Qは先行きに不透明感が残るものの、部品調達率が改善へ向かうことに加え、不足部品に対する設計変更などの対策を講じることで大幅な生産回復が見込まれることから、連結業績予想の修正は行わない

(億円)

	'21/3期実績	'22/3期予想	増減
売上収益	2,736	2,850	+ 114
営業利益	49	75	+ 26
税引前利益	45	64	+ 19
親会社の所有者に帰属する当期利益	22	30	+ 8

(円)

	'21/3期実績	'22/3期予想
期末配当金 (1株当たり)	5	6

		'21/3期	'22/3期想定
損益為替レート	1米ドル	106円	108円
	1ユーロ	124円	130円

1. 2022年3月期 第3四半期決算概況

2. 2022年3月期 通期業績予想

3. トピックス

M&T分野 「ものづくり改革」

- JVCケンウッド長野での自動化ラインによる国内アフターマーケット向けカーナビゲーションの製造を、2月下旬から本格的に開始
- 第4四半期は前年比約2.5倍の生産を予定



JVCケンウッド長野の自動化生産ライン

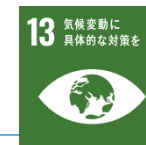


JVCケンウッド長野外観



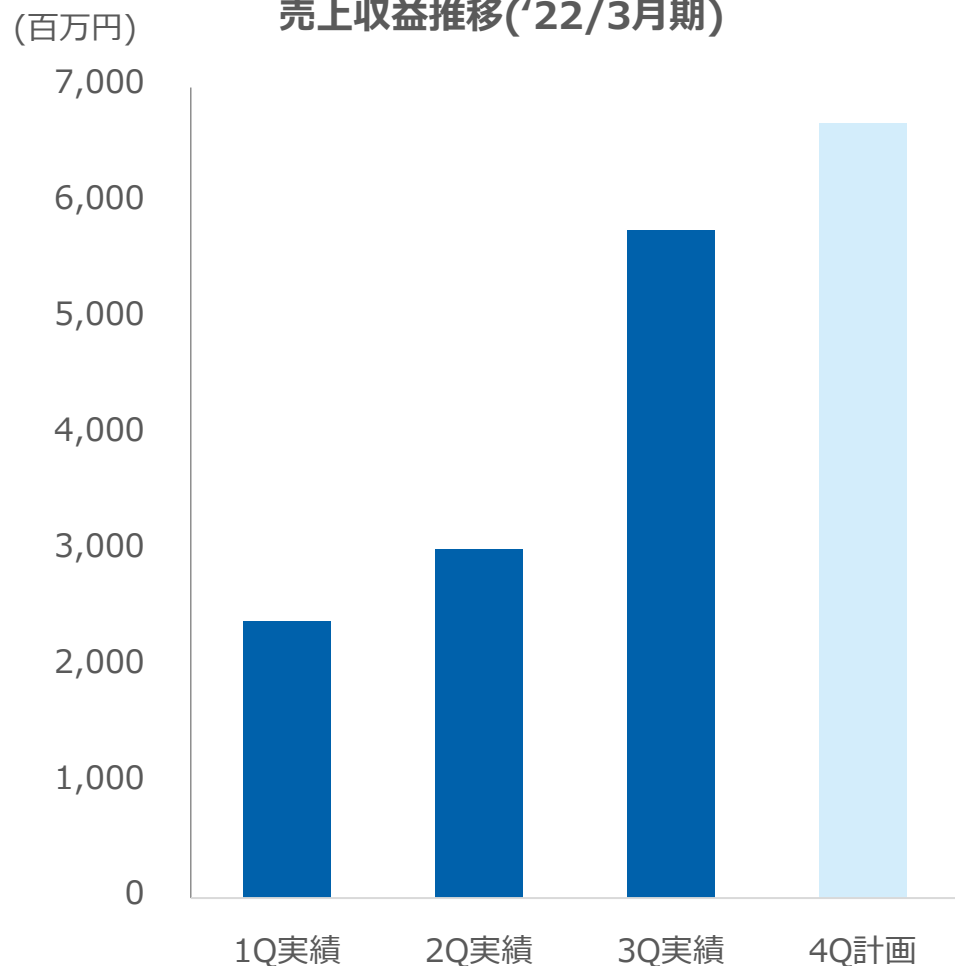
カーナビゲーション
MDV-M908HDF

M&T分野 テレマティクスサービス事業の進展



■ MS&AD向け通信型ドライブレコーダーの販売が堅調

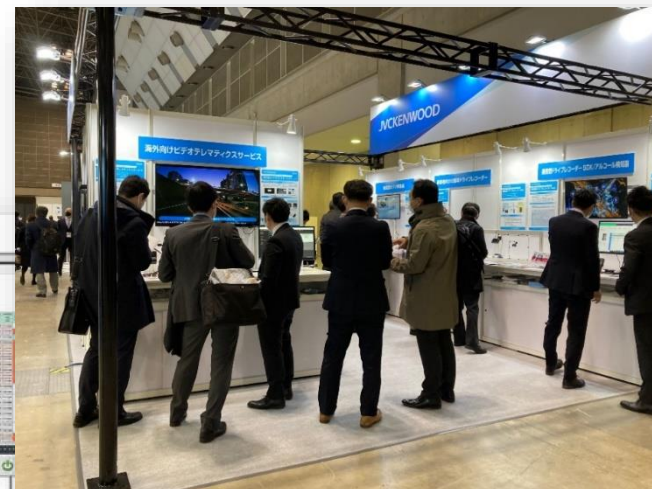
テレマティクスサービス事業 売上収益推移('22/3月期)



通信型ドライブレコーダー
※イメージ



- 1月19日～21日に開催された「第14回オートモーティブワールド」に出展
 - 通信型ドライブレコーダーを軸に、車両管理や運行管理におけるさまざまな課題解決に向けた汎用性の高いテレマティクスソリューションを提案
 - 段階的な法改正に対応した、事業者が記録・管理しやすい通信機能を搭載したアルコール検知器も参考出品



当社ブースの様子



BT 4.2/ BLE



E-mail
(***gmail.com)



- ・測定日時・ID 番号
- ・測定回数
- ・寿命回数

- ・センサー寿命
- ・アルコール濃度
- ・設定単位

- ・GPS情報
- ・測定写真

* アルコール検知した場合管理者直通「アラート通知メール」でお知らせ管理者は、状況確認・業務停止指示する事などが可能です。

【参考出品】通信機能を搭載したアルコール検知器

- 国内市場において抗菌・抗ウイルス加工の特定小電力無線機の受注好調。デジタル簡易無線機として「業界初*」となるSIAA抗菌認証を取得した新製品TCP-D261シリーズも市場から高評価

*2021年9月時点、当社調べ

抗菌・抗ウイルス加工をした 特定小電力トランシーバーUBZ-LS20シリーズ

特定小電力トランシーバー
DEMITOSS
免許・資格不要

抗菌・抗ウイルス加工済

SIAA
ISO 22196
抗菌加工

視認性、操作性、継承性の洗練。
さらに、抗菌・抗ウイルス加工。



UBZ-LS20/LS27R

堅牢・薄型・コンパクト
抗菌・抗ウイルス加工

業界初

※デジタル簡易無線機の「SIAA抗菌認証」として(2021年9月現在、当社調べ)

抗菌・抗ウイルス加工済

SIAA
ISO 22196
抗菌加工



Bluetooth® (TCP-D261BTのみ)
TCP-D261BT/D261

業界初のSIAA抗菌認証を取得した
デジタル簡易無線機TCP-D261シリーズ

MS分野 事業ポートフォリオ改革



- 事業ポートフォリオ改革の一環として、民生用ビデオカメラの生産を終了
培った高精細・高画質を実現する映像技術やノウハウなどのリソースを成長事業にシフト



映像技術
ノウハウ



プロジェクター



リモートカメラ



ドライブレコーダー

MS分野 エンタテインメント期待作品ほか



■ 4Q期待作品

- 木村拓哉「Next Destination」(1月19日発売)
2年ぶり2作目となるフルアルバムが好調なセールス
- サカナクション「アダプト」(3月30日発売予定)
タイアップ・ソングを含む待望のコンセプトアルバム



木村拓哉
「Next Destination」



サカナクション
「アダプト」

■ 3月19日(土)ビクターロック祭り開催予定



〈出演予定〉 ※1月17日発表分
ORANGE RANGE
go!go!vanillas
サカナクション
サンボマスター
Dragon Ash
The Shiawase

ESGの取り組みなどに関する評価や表彰

- プライム市場上場を機に、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に向けて、さらなる積極的な取り組みを推進



大和IR「2021年インターネットIR表彰」 3年連続優良賞を受賞

- 今後さらに当社WebサイトにおけるIR情報はじめとする企業情報のさらなる充実と適切な情報開示を図る



FTSE Blossom Japan

ESG指数
「FTSE Blossom Japan Index」
構成銘柄
初選定



第3回日経
「SDGs経営」調査
星3.5



健康経営優良法人
(大規模法人部門)
に4年連続で認定



LGBTなどの
性的マイノリティに
関する取り組みの
評価指標
「PRIDE指標」
最高位「ゴールド」を
4年連続で受賞



女性活躍推進法に
基づく
「えるぼし」認定の
最高位

JVCKENWOOD

このプレゼンテーション資料に記載されている記述のうち、将来を推定する表現については、将来見通しに関する記述に該当します。これら将来見通しに関する記述は、既知または未知のリスクおよび不確実性並びにその他の要因が内在しており、実際の業績とは大幅に異なる結果をもたらすおそれがあります。これらの記述は本プレゼンテーション資料発行時点のものであり、経済情勢や市場環境によって当社の業績に影響がある場合、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。実際の業績に対し影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、(1) 主要市場（日本、米州、欧州およびアジアなど）の経済状況および製品需給の急激な変動、(2) 国内外の主要市場における貿易規制等各種規制、(3) ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、(4) 資本市場における相場の大幅な変動、(5) 急激な技術変化等による社会インフラの変動、などがあります。ただし、業績に影響を与えうる要素としてはこれらに限るものではありません。